

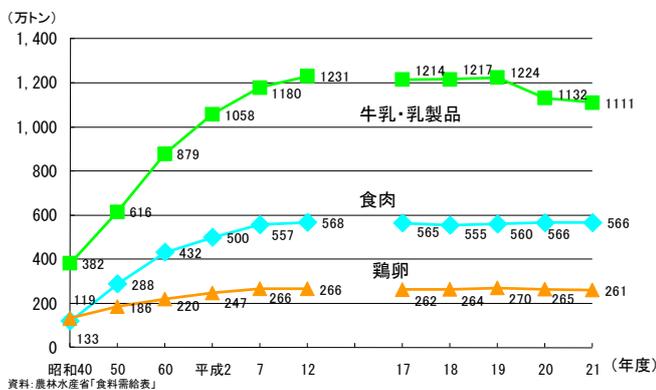
# 畜産物の需給動向



## ◆概況

21年度の畜産物の需要量は、牛肉が前年をわずかに上回る

図1 畜産物の需要量

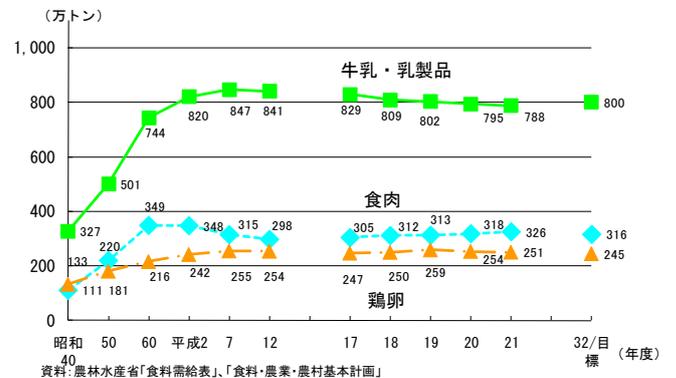


畜産物の需要量は、牛肉が前年度比2.5%増と2年ぶりに前年度を上回ったものの、豚肉は輸入量の減少から同2.1%減となった。鶏肉は景気低迷による消費者の低価格志向により同1.5%増と2年連続で上回った。

また、「食料・農業・農村基本計画」(22年3月閣議決定)においては、32年度における1人当たり年間消費目標として、生乳が89キログラム、牛肉5.8キログラム、豚肉12キログラム、鶏肉11キログラム、鶏卵17キログラムを見込んでいる。

一方、21年度の実績(概算値)では、牛乳・乳製品が84.8キログラム(うち飲用32.7キログラム、乳製品51.9キログラム)、牛肉が5.9キログラム、豚肉が11.5キログラム、鶏肉が11.0キログラムとなった。

図2 畜産物の生産量

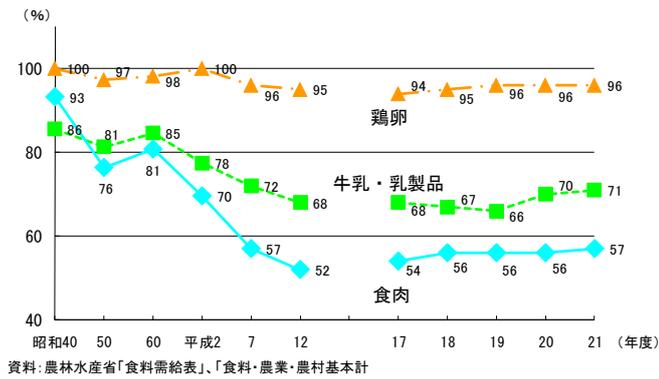


畜産物の生産量について見ると、牛肉は20年度に前年度を1.0%上回ったが、21年度はほぼ前年並み。豚肉は衛生対策による事故率低減などから20年度に同1.1%上回り、21年度においても同4.6%上回った。鶏肉は根強い国産志向に加え景気の低迷により安価な鶏肉の需要が高まったことから、20年度に同2.4%、21年度においても同1.3%といずれも前年度を上回った。

鶏卵の生産量は、20年度に前年度を2.0%下回り、21年度も同1.2%下回った。

牛乳・乳製品の生産量は、20年度は同1.0%下回り、21年度も同0.8%下回った。

図3 畜産物の自給率の推移



食肉の自給率は、18年度以降56%と横ばい傾向で推移していたが、21年度は57%と1ポイント上昇した。このうち、牛肉は17年度以降43%、20年度は1ポイント上昇の44%となったが、21年度は再び43%と1ポイント減少した。豚肉は18年度以降52%であったが、21年度は55%と3ポイントの上昇となった。鶏肉は18年度以降69%であったが、20年度は1ポイント上昇し70%となり、21年度は前年水準を維持した。

牛乳・乳製品は20年度は輸入量が大幅に減少したことから前年度を4ポイント上回る70%で推移し、21年度は1ポイント上昇の71%と2年連続の上昇となった。